

と畜場搬入豚における疣贅性心内膜炎から分離した

Streptococcus suis の 10 年前との比較

○松本 圭、高木 慎介、森本 賢治、下司 高弘、山内 俊平、細井 美博

豊橋市食肉衛生検査所

【はじめに】 豚の疣贅性心内膜炎の主要な起因菌として *Streptococcus* 属菌が挙げられ、特に *Streptococcus suis* は人にも感染し化膿性髄膜炎などを起こすことから人獣共通感染症として注目されている。今回、管内と畜場に搬入された豚の疣贅性心内膜炎から分離した *S. suis* の分離状況及び薬剤感受性について調査し、10 年前と比較検討したので概要を報告する。

【材料および方法】 2002 年 9 月から 2005 年 6 月まで（以下、Ⅰ期）及び 2012 年 6 月から 2013 年 3 月まで（以下、Ⅱ期）に疣贅性心内膜炎と診断した豚の心内膜疣贅物から *Streptococcus* 属菌（Ⅰ期:149 株、Ⅱ期:74 株）を分離した。Api ストレップ 20（日本ビオメリュー）を用いて同定された *S. suis* の占有率及び農場特性、並びに薬剤感受性試験（Kirby-Bauer 法）をⅠ期は 6 農場 54 株を 13 薬剤（TC、LCM、OTC、EM、SM、GM、OFLX、PCG、ABPC、CP、ST、KM、CEZ）、Ⅱ期は 9 農場 47 株を 14 薬剤（Ⅰ期の 13 薬剤に CLDM、DOXY、AMPC を加え、OTC、CP を除く）について実施した。

【結 果】 *Streptococcus* 属菌のうち *S. suis* が占める割合は、Ⅰ期が 42 農場 116 株（77.9%；*S. suis*1:57 株 38.3%、*S. suis*2:59 株 39.6%）、Ⅱ期が 18 農場 56 株（75.7%；*S. suis*1:39 株 52.7%、*S. suis*2:17 株 23.0%）であった。複数の *S. suis* 株を分離した農場では、Ⅰ期は 12 農場中 9 農場で、Ⅱ期は 9 農場すべてで、*S. suis*1 か *S. suis*2 のどちらか一方のみが分離された。また、Ⅰ期に *S. suis*2 のみを 22 株分離した 1 農場から、Ⅱ期にも *S. suis*2 のみが 7 株分離された。

薬剤感受性試験の結果、Ⅰ期で耐性を示した薬剤と菌株数は、TC:5 農場 43 株、LCM:5 農場 42 株、OTC:4 農場 20 株、EM:3 農場 16 株、SM:2 農場 11 株で、他の 8 薬剤には耐性を示さなかった。Ⅱ期では、TC:9 農場 47 株、LCM:8 農場 40 株、CLDM:8 農場 39 株、EM:4 農場 6 株、DOXY:2 農場 2 株で、他の 9 薬剤には耐性を示さなかった。豚の疣贅性心内膜炎から分離した *S. suis* の薬剤耐性獲得状況は、10 年前と比較し大きな変化は認められなかった。